
東方酒星記

先日二番星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方酒星記

【NZコード】

N1687P

【作者名】

先日一番星

【あらすじ】

幻想郷に住む半人半鬼、道上蓮華と東方キャラのほのぼの系ギャグ小説。

某サイトが閉鎖してしまったので、リメイクとしてこちらに書かせてもらいます。

（蓮華プロフィール）

誕生日 作者と一緒に。

好物 酒（洋酒から日本酒まで）

苦手 勉強、真面目な人

性格
自慢
能力
特技

一気飲み 建設

衝撃を操る程度の能力
自家の酒蔵。自分専用の居酒屋もある。
大雑把、変態、豪快

巫女と白黒と半鬼1

幻想郷。

俺は生まれた時からここにいる。

そう言つても、能力は後天性だつたし、生まれた時から半鬼ではなかつた。

詳しい話は後だ。なぜなら今、俺の状況は……

「待ちなさい蓮華！待たないと斬るわよ！」

「待つても斬るだろ！巫女のくせに包丁をふりまわすな！」

……紅白の巫女「博麗靈夢」に追いかけられてるといつ、最悪の状況だ。とか言つてる場合じやない！

鬼の力でも包丁は痛い。死なないが。

ちなみに俺の年齢は2010歳だ。人間の見た目で19ぐらいだがな。つてグハア！

……本気で刺された……血が……

「やつとつかまえたわよ！ハツ裂きがお望みかしら……」

「勘弁してくれ……壊したふすまはしつかり直すから……」

背中の傷口にザクザク刺してくる。やめてください痛いです。

「それにしても……」

血まみれ涙目になりながら聞いてみる。

「先月の賽銭はいくらだつたんだ？」

「…………102円。」

「は？」

「102円？嘘だろ？」

「そんなに貰えたの？」

「黙りなさい！」

「ゴフウ！」

「やめる！俺は……じゃない！どっちかって言つとうだ！」

はあ……まったく仕方がない巫女さんだ……

巫女と血黒と半鬼ー（後書き）

どうでしたでしょうか。

出来る限り週一で投稿していくかつネタ切れにならないようにがんばります。

よろしくお願いします。

巫女と紅髪と半鬼2（前書き）

ところが、早速遅れてしまつた上に、パソコンが使えないのでもうからの投稿となり少し文が少ないです。ご了承下さい。

巫女と白黒と半鬼2

しばらく俺より鬼なのではないかといつ巫女と格闘していると、

「おーい靈夢ー！、蓮華ー！」

大変元気な声が聞こえてきた。

恐らくこっちに突っ込んでくると直感的に、予想した俺は、
グイック
ポイ。

俺の血でまみれた靈夢を、声の方向へ投げ捨てた。

最初から投げ捨てとけといつこみは、絶対に受けない。

「ちょ、キヤアアアアアアアー！！」

「え？、うわ！靈夢ーこっちに来るなー！」

ガンッ！

思いつきり痛そうな音がした後、
激怒した紅白と、呑気に頭をさする白黒がこっちにやつてきた。
「よくわかったな、ぶつかりにくるって。流石鬼の直感。」

「痛いわね！何するのよ！」

二人がお互いの感情をぶつけてくる。

うーむ……対照的なかわいさ

「聞け！」

靈夢さんすいませんでした。だからそのスペルカードをしまってく
ださい頼みます。

あんな危険な戦いやつてられるか。受けたくないし女の子にスペ
ルカードで攻撃したくもない。

一応スペルカードは持っているが。

因みに俺のスペルは、三衝蓮華という、あの一本角の鬼のスペルカ
ードをモチーフにしたのとかがある。
まあ似てるのは名と構えだけ。

弾幕は全くの別物だ。

……誰に言つてんだかわからんねえセリフを呴いてると

「で、魔理沙はなんのために来たの？」

靈夢が話を本題に戻す。

「ああそだパチエリーが「レミィがあなたと弾幕」しきがしたいと言つていたわ」だとよ。」

俺と？

「拒否権はないつてよ。」

なんだつて？吸血鬼のお嬢様が俺と弾幕」しき？あまりに不釣り合いでいる。

俺が不利な方で。

はあ……仕方ない……氣が進まないんだが

「スマン。お前らも一緒にきてくれ。俺一人じゃ無理だ。」

咲夜さんのコーヒー飲みに行くか。

巫女と白黒と半鬼2（後書き）

どうでしたでしょうか。

始話3章ずつぐらいで、やつていきたいと思します。
今回の話はこれでおしまいです。

次回は、

紅魔編です。よろしくお願ひします。

紅と半鬼と吸血鬼1（前書き）

PCが使えないためまた遅れました。 すみません。

紅と半鬼と吸血鬼1

はあ……

「なんで俺が……」

「で、」

「ん?」

「なんで靈夢が俺の背中に?..?」

そう、何故か知らんが、靈夢が俺の背中で寝てるんだ。で、手がやらしい。どこ触ってんだ。

「眠いから着くまで寝るつて。」

呑気につなノノヤロウ。俺は今犯罪者的な手に理性を破壊されそうになつてゐるのに。

ちなみに俺は思いつきり助走をつけて跳んでいる。犬夜叉の法則だ。俺は飛べん。

着いた。2時間掛かつた。疲れた。

「どけ。靈夢。着いた。」

「ムニヤ…あと…5分…と4時間……」

「氏ね

肘打ち。

「痛いっ! 何よーもつと優しく起こしてー!」

「それでお前は起きないだろ。なあ魔理さん?」
まさか……

「おじやまするぢ。」

やっぱ先行つてゐー不味い!

心の準備も無しかよ!畜生。行くしかないのかよ……

あーあ……

紅と半鬼と吸血鬼1（後書き）

たまに紳士（色んな人が）なのでR - 15です。
ご了承を。

紅と半鬼と吸血鬼2（前書き）

年末年始なのでまたまた遅れました。
サーセン。

紅と半鬼と吸血鬼2

紅魔館内部

門番いなかつたが、中に居るのか？
まあいいや。

「魔理沙、お嬢さんはこここのどこで待ってるって？」
「ん」確かに時計台だつたかな？」

なんでそんな面倒な所に……

まあ室内を傷つけない工夫だらう。仕方ない。

ああその前に、

「咲夜さん。」

シユツ！

「及びでしようか？」

呼べば来る。すごい人だ。しかし……

「余り時間を止めてるといけないですよ。

あなたの寿命は、俺の100分の1しかないんだし。」

「申し訳ございません。以後気付けてます」

ちなみに咲夜さんに敬語を使うのは、

10代の人間だというのにこんなに仕事をこなせるという感心と尊敬からだ。

結構幻想郷の中でも年上な俺はほとんどタメだが、数少ない敬語相手の中の一人がこの人ってことだ。

……スタイルもいいしな。

また誰に言つてんだか。俺は。
さて、そろそろ着くかな？

紅と半鬼と吸血鬼2（後書き）

さてリメイク前はバトルカット的なことをしたが……どうすつか
なあ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1687p/>

東方酒星記

2011年10月8日10時56分発行